

景気景況調査報告

(第15回)

令和元年 7～ 9月期 実績

令和元年 10～ 12月期 見通し

令和元年11月

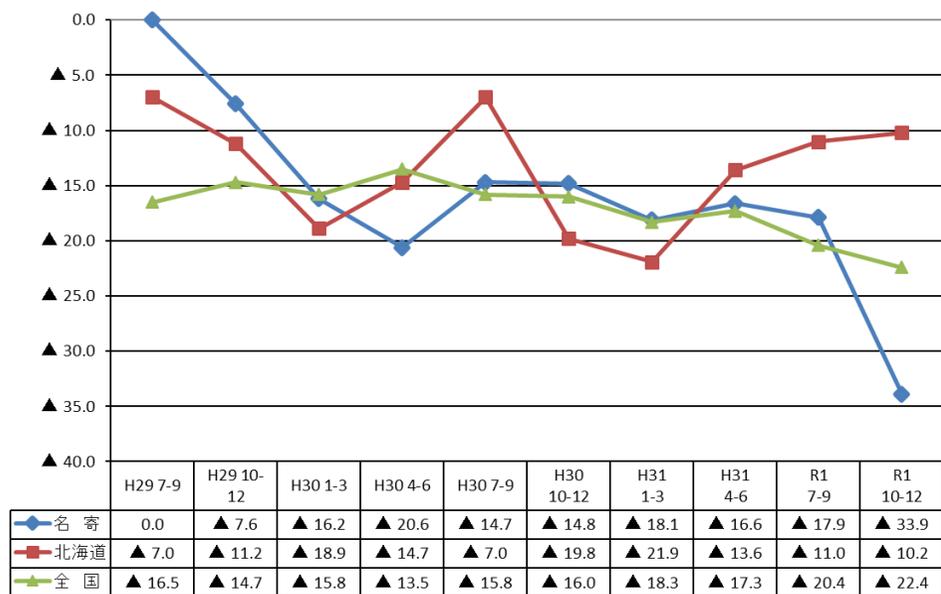
名寄商工会議所

I 調査要領

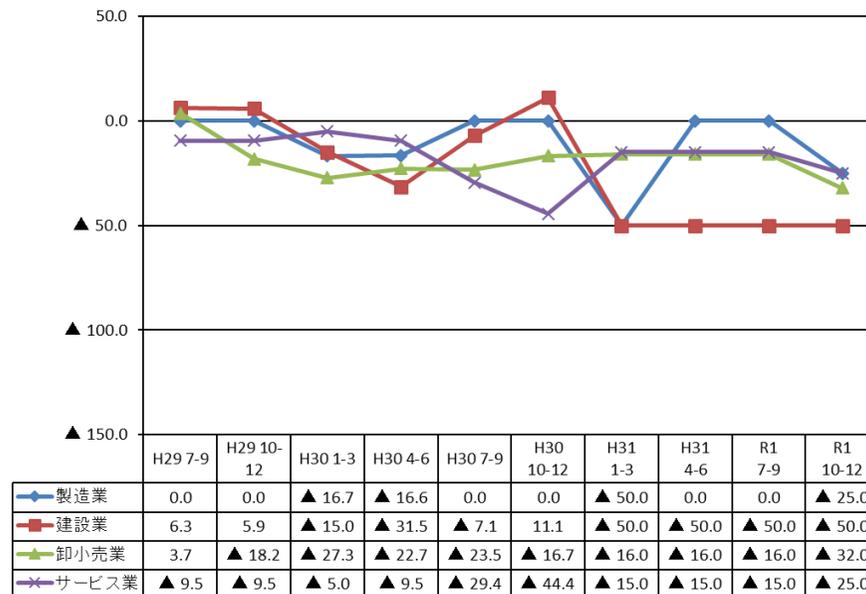
- ①調査対象期間 令和元年7～9月期の実績及び令和元年10～12月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願ひ） 65社

II 調査結果

全業種平均業況DI



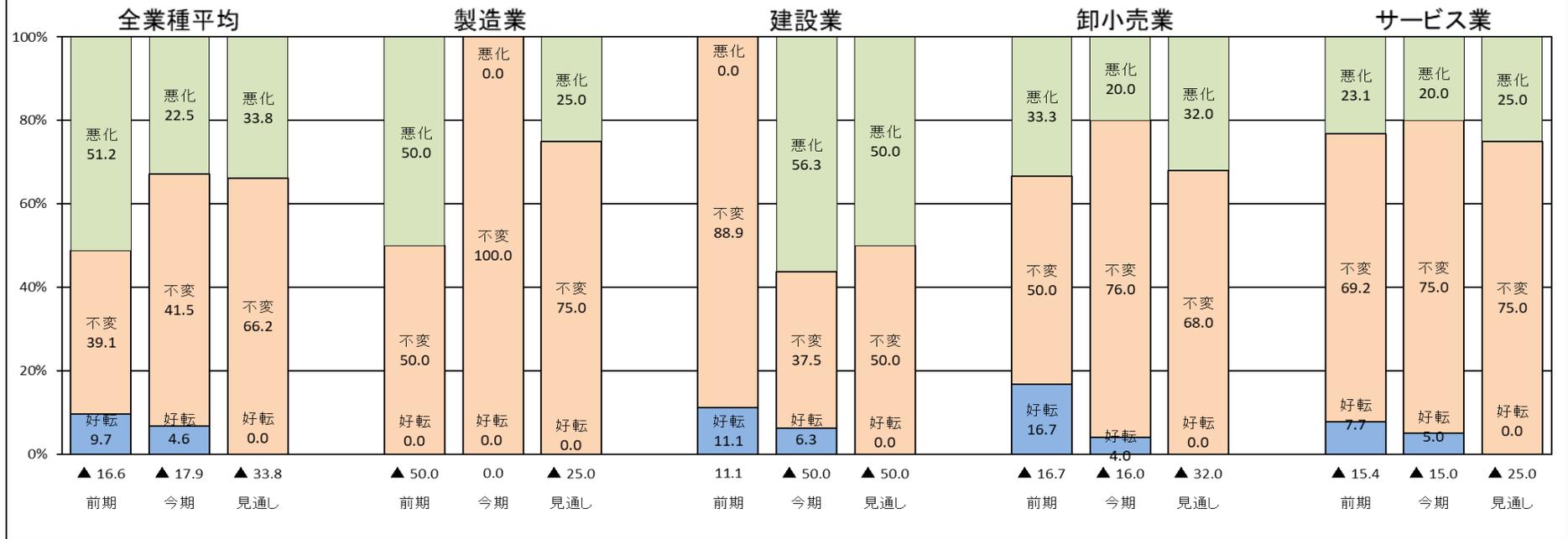
業種別業況DI



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- ・今期、全業種平均で▲17.9ポイントと前回調査と比べ1.3ポイント減少となっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気と比較すると、今期▲6.9ポイント悪く、見通しでも▲23.7ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気と比較しても、今期2.5ポイント良いが、見通しでは▲11.5ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・名寄市の見通しが今期よりマイナス幅が拡大する要因としては、仕入単価増加・人口減少・人件費の上昇・消費税の増税との回答が多数あり。
- ・業種別の見通しでは、建設業は横ばいとなっていますが、製造業、卸小売業、サービス業では悪化の傾向となっております。

業種別業況回答割合

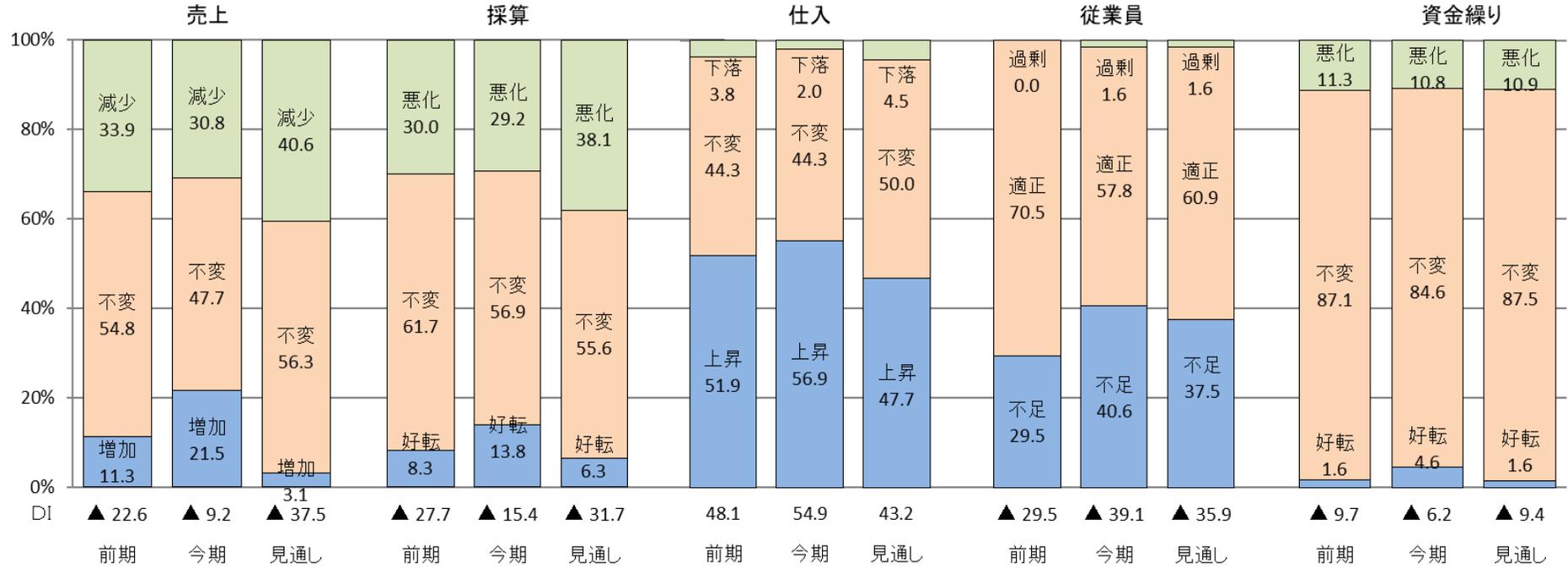


※D I : 「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 前期に比べ、今期は「不変」が100%となり、「悪化」「好転」回答がなくなった見通しでは「悪化」が25%増加し、好転が見込めない状況となっている。
- 建設業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が56.3%と半分以上を占めている。見通しでは「好転」回答がなくなっており、「悪化」と「不変」で半々となっている。
- 卸小売業～ 今期は前期に比べ、「好転」が12.7%減少しており、見通しでは「好転」の回答がなく、「悪化」が12%増加しており厳しい状況となっている。
- サービス業～ 今期は前期に比べ、少々の変動はあるがほぼ横ばいとなっている。見通しでは「好転」回答がないため継続して厳しい状況となっている。

全業種平均では、今期は前期より「悪化」28.7%減少。見通しでは「悪化」11.3%増加となっているが、「好転」回答がないため、景気回復の兆しは未だに不透明である。

全業種平均項目別回答割合



売上 DI

[増加の要因]

今期▲9.2ポイントと前期より13.4ポイント増加となっている。見通しでは▲28.3ポイントマイナス幅となっている。
 ・消費増税前の売上増加 ・消費者の買い控え

採算 DI

[好転の要因]

今期▲15.4ポイントと前期より12.3ポイント増加となっている。見通しでは▲16.3ポイントマイナス幅となっている。
 ・消費増税前の買い控え

仕入 DI

[上昇の要因]

今期54.9ポイントと前期より6.8ポイント増加。見通しでは▲11.7ポイントマイナス幅となっている。
 ・消費増税による単価上昇

従業員 DI

[不足の要因]

今期▲39.1ポイントと前期よりも▲9.6ポイントマイナス幅が拡大となっている。見通しでは3.2ポイント増加となっている。
 ・少子高齢化 ・利益下落の恐れ ・求人難

資金繰り DI

今期▲6.2ポイントと前期から3.5ポイント増加。見通しでは▲3.2ポイントマイナス幅となっているため厳しい状況。